

# 春風秋霜

4月号

令和5年4月20日  
島田市教育委員会だより  
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 本年度も、よろしく願いいたします。

令和5年度の活動が始まって、半月が過ぎました。島田市教育委員会の中野部長が退職され、新しくこども未来部長だった小松原部長が教育部に配属されました。また、スポーツ振興課の課長として議会事務局から浅岡課長が、学校給食課の課長として資産活用課から矢部課長が、図書館課の課長として生活安心課から静賀課長が配属されました。また、新しく他課から教育委員会に配属された職員や新規採用の職員もおりますので、よろしく願いいたします。

4月3日の教育委員会の辞令交付式の中で、次のような話をしました。

教育委員会の仕事は、多岐にわたっています。ただ、各課が実施している全ての事業や活動が、子どもたちや市民の皆さんの生涯にわたる学びに通じていると思います。言い換えれば、人生を豊かに過ごすためのお手伝いの仕事をしているのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは、5月8日から、感染症の分類上2類から5類に分類されることになっています。また、教育委員会の提言の中で、4月から学校でマスクをするかしないかは、保護者の皆さんと相談して、子どもたちが自分で判断することになっています。今後少しずつ、変化が見えるようになってくると思いますが、教育委員会に関わる活動については、人を集めての活動がたくさんありますので、臨機応変な対応が必要になることも考えられます。今後、充実した活動や事業ができますように、対応をよろしく願いいたします。

小松原教育部長を中心に、各課の課長さんのリーダーシップの下、チーム教育委員会としてがんばっていきましょう。

よろしく願いいたします。

新しい年度を迎え、心機一転、がんばります。それぞれの職員が市民の皆様のために一生懸命仕事をしたいと考えています。どうぞ、よろしく願いします。

## 2 大谷選手の言葉に思うこと

日本中が熱狂した野球のWBC（ワールド ベースボール クラシック）を、皆さんは、御覧になりましたか。私も、WBCの試合を見て、日本選手の大活躍を見て、感動した一人です。

特に、栗山監督の選手を信頼し、穏やかに見つめている眼には、リーダーとしてどのように振る舞ったらよいのかを教えられたような気がしました。また、若い選手が多く、20代の選手が自信をもって活躍している姿にも感動しました。

決勝戦の前に、大谷選手が他の選手に掛けた言葉にも感動しました。テレビでも試合前に日本選手団が円陣を組み、いろいろな選手が一言、思いを仲間に投げ掛ける場面が紹介されていきましたので、皆さんも御覧になったかもしれません。最後の

決勝戦前のロッカールームでの大谷選手の声掛けは素晴らしかったです。

「僕から一個だけ。今日はあこがれるのをやめましょう。ファーストにゴールドシュミットがいたりとか、センターを見たらマイク・トラウトがいるし、外野にムーキー・ベッツがいたりとか、野球をやっていれば、誰もが知っているような人がいると思います。あこがれてしまったら超えられないので、僕らは今日超えるために、トップになるために来たので、今日一日だけは彼らへのあこがれを捨てて勝つことだけを考えていきましょう。さー、いこう！！」と、やる気を鼓舞しています。

私たちが、夢を叶えようとしたり、目標を持って何か挑戦しようとしたりするときに、夢は叶わないとか、目標が大きいから挑戦しても無理だと思った時点で、きっと夢や目標は叶わなくなってしまう。

大谷選手は、そのようなことを「あこがれは捨てて、勝つことだけを考えていこう。」と表現したのだと思います。「夢から始まる！！」子どもたちには、大きな夢をもってほしいと改めて思いました。

## 肘かけ椅子

# 「金谷茶まつり」

教育委員 柳川真佐明

令和5年4月8日、9日に第40回金谷茶まつりが行われました。コロナ禍で中止が続き5年ぶりの開催でした。金谷茶まつりは、昭和27年に第1回目を開催しています。

明治初期の茶園開拓から今日まで茶業を町の産業の中心としてきた金谷で引き継がれてきたこのお祭りは「茶摘みの歌」でも広く知られている「茶娘」の姿が特徴的なものです。



6つの屋台から集まって繰り広げられる「茶娘合同踊り」は、色鮮やかで新茶シーズンの到来を知らせる金谷ならではの風景です。

また、屋台道中の正面付けやすれ違い、練習を重ねた屋台踊りの披露、屋台ごとに違うお囃子、金谷大井川川越し太鼓などお天気にも恵まれ、見所満載のお祭りとなりました。

今回コロナ禍により、通常の2年に1度というリズムが崩れ、世代の交代やしきりの伝達等いろいろな面でいつもにはない困難がありました。

伝統行事というものは、一定のリズムを持って次の世代に伝えていくことにより、長く守られていくものであることを痛感いたしました。そしてそのリズムを保ちながら地域のコミュニティを継続していくことが暮らしやすさや、災害時の備えにも繋がると思いました。